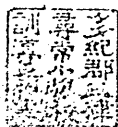


實  
驗  
日  
本  
修  
身  
書  
卷  
一  
尋  
常  
小  
學  
生  
徒  
用



檢定合格本



C 1

54



明治廿六年九月十八日  
文部省檢定濟



三宅米吉校閱  
中根淑編纂  
渡邊政吉  
實驗  
日本修身書卷一  
尋常小學  
生徒用

東京 金港堂書籍會社



第一課 父母の恩

とりけもの  
うの子を



たもふをみても、父母  
の、われらをあいするの  
あつきをーるべー。



第二課 孝行

ふさはつねに  
父母のげふ  
をたすけまた

よくろのころをなぐさめ  
たり。

父母のげふをたすくるは  
子たるものつとめなり。

第三課 孝養

祖父<sup>ソフ</sup> 祖母<sup>ソボ</sup>に

つかふること

父母にひど



かるべし。

藤藏<sup>フサウ</sup>は、祖母<sup>ソボ</sup>のびやうき

のえんせつにかいはり

せり。

第四課 兄弟



太<sup>タ</sup>四<sup>シ</sup>郎<sup>ラウ</sup> 兄<sup>キヤウ</sup>弟<sup>ダイ</sup>  
は、むつまじく  
まどはりて

親<sup>オヤ</sup>のころをなぐさめ  
たり。

兄弟むつまじくして父母の  
ころをよるばるむす。

第五課 兄弟

北條泰時は、

よく弟を

いづくゝみ、もの



を分つに、己れは、少くとり

て、弟には、多くあたへたり。

兄姉は、弟妹をいたはる

こと、子のごとくすべし。

第六課 信實



信太郎は、いつはり  
をかたらず  
やうくをたがへ

ずいてよく

友だちと

まどはりたり。

友だちにまどはるには

信實をだいとす。



第七課 朋友

友だちになんぞ  
あればたがひ  
にたすけあひ



てたのもしくすべし。

直吉<sup>ナホキチ</sup>は友だちのくわどに

てわけーとき<sup>トキ</sup>かねをかー

てねんごろにたすけたり。



第八課 言語

言をつつま  
ざれば、わざはひ  
をしきれとす

ことあり、勇作が、まやくの  
心をうとなひたるをみて  
も、これをしるべし。  
あざはひは、口よりたこる。

第九課

驕慢を制け

兵助は、もの

ねほに、よき

こともなり



ーが、からまん、の、心、わ、こ、り

て、が、く、げ、い、を、た、こ、た、り、つ、ひ

に、ー、け、ん、に、ら、く、だ、い、せ、り。

まんは、ろ、ん、を、ま、ね、く。

第十課 師弟

若林新七はよく

師シにつかへ

かくもんをつとめ



て、なだかき人ヒトとなりたり。

師オシの恩オンは父にたなり、

よくろのたふせをまもり

て、うやまいつかふべし。



第十一課 温和

あらうはざるは  
人にまづはる  
のみちなり。

徳太郎は、たこなひ ただーくー

て、人どあらうひ たる こと

なかり ければ、つひに 人に

うやまはれ たり。

第十二課 弘量

イダクラシゲマサ  
板倉重昌は、けらい  
のために、たいせつ  
のゆみををられ



たれども、すこしもいからず、かへり  
て、ろの人をなぐさめたり。  
かんにん<sup>の</sup>なるかんにんは、たれも  
する、ならぬかんにん<sup>の</sup>するが、かんにん<sup>の</sup>。

第十三課

過ちを  
改む



みのあやまちをさぐ  
なきて人をあやむ  
はよろしからず。

あるいふが、いふをわけて、いふをたしめる  
が、父のはやうをきいて、大いにこころをい  
しなきて、そのつみをあびたり。  
あやまちばあつたむるにはばかるなかれ。

第十四課 過ちを改む

あやまちをあらむ  
れば、あやまち  
なき人となる。



ホリデウヤストキ  
北條泰時、人のあらうひをさばかん

しけるに、ろの一人、自ら<sup>ミヅカ</sup>あやまちを

さとりて、あらうひをやめければ、泰時

これをほめて、はうびをあたくたり。



第十五課 勤儉

勤儉はみをつたへ  
いへをさむる  
のもとなり。



新七はまづくーて人につかへー  
がよぐげふをつとめ、つひに  
はぶきていへをれと、つひにあまた  
の人をもつかふみとなりたり。

第十六課 節儉

土井利勝<sup>ド井 トシ カツ</sup>は、けんちく

の人なりあるとき

くついをひらひたき



くちぎしーのくちぎしーをひらひたり。

わづかのもものをもすくべから

ずようなきぬきにたふせく

てようあるぬきよちぎー

第十七課 仁慈

宇右衛門夫婦は、

いづたはたをうり

はらひてゐたる人



をたすけ、またりのむすめもいふくを

ぬぎて、こごねたる人にあたへたり。

己れあたたかなりとも、人

のさむさをたもふべし。

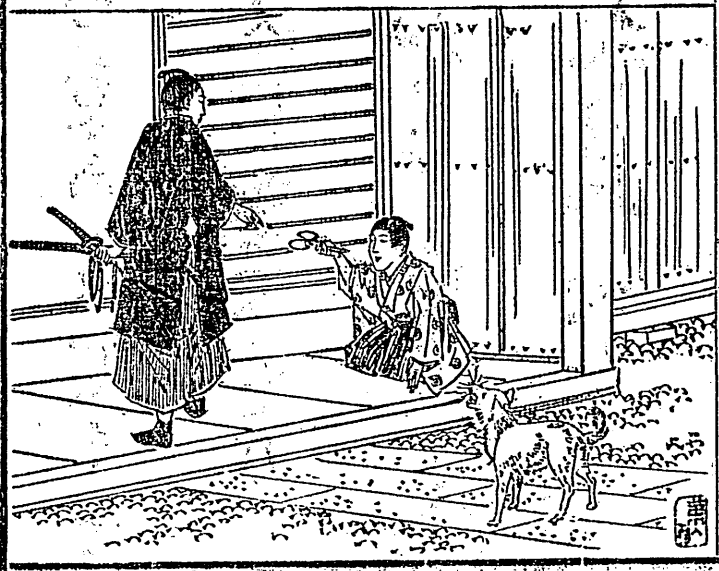
新編 浮城物語 卷一

第十八課 仁恕

岡本半助<sup>ヲカモトハンスケ</sup>は、しゅん

より、犬<sup>イヌ</sup>のみみを

きれ。といはれたる



とてはせふをもちて「もういそぐん

より、こころみたまへ」といひたり。

わがみをつんで人の

いたさをしれ。

第十九課 學問

よみかきをしるされ  
ばよろづのこと  
ふどいふたほし。



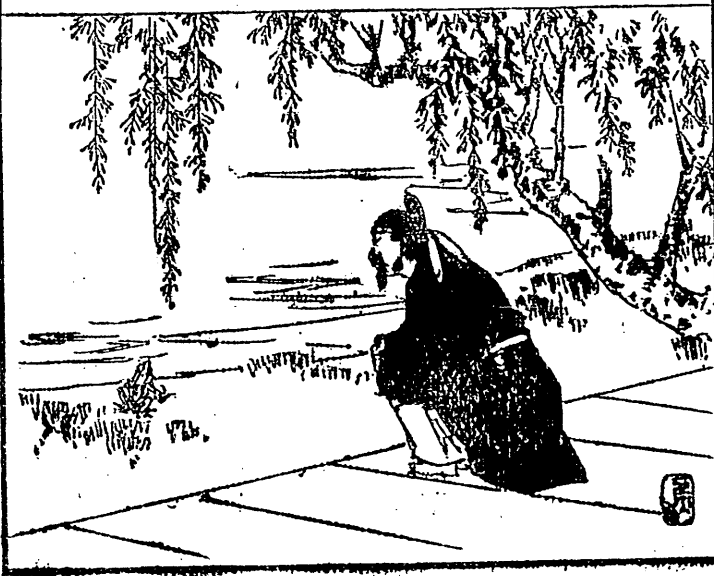
竹次郎<sup>タケジロウ</sup>といふ人は、みちゝるづをよみ  
おすゝて、みちにまよひたりとぞ。  
かくもんは、よろづのこと  
なり。なり。

第二十課 忍耐

むか 小野道風と

いる人あり、かばづ

のやなぎの江だに



とびつきたるをみて、いんばうのたいせう

なることをしり、てならひをはげみ

て、なだめさてもいとまりたり。

たうたらざれば、なげともなる。

明治廿六年六月十日印刷  
同 年六月廿七日發行



著 者  
發 行 者  
代 表 者  
印 刷 者  
賣 捌 所

(日本國內通用)  
定價 金五錢五厘

渡邊政吉

金港堂書籍株式會社

原亮三郎

日置九郎

金港堂

金港堂

金港堂

宮城縣仙臺市關分町五丁目

實  
驗  
日  
本  
修  
身  
書  
卷  
二  
尋  
常  
小  
學  
生  
徒  
用

多紀郡立  
尋常小學校  
訓導印

檢定合格本

K120.1
55
2